

## 海外調査の報告／書評(山ロー男『ダイバーシティ』)／スペシャルタナーレクチャー

### <海外調査の報告> 「韓国 梨花女子大学のリーダーシップ教育」(2016.3.23)

お茶の水女子大学グローバルリーダーシップ研究所 特任講師 小松翠

#### 【調査概要と調査目的】

本研究所はアジア型の新しい女性リーダー像の提案とグローバル女性リーダーシップ論の構築のため、先進的なリーダーシップ教育及び研究を行う海外の大学間との連携を築くことを目指しています。そのための第1回調査研究として、2016年3月23日に、韓国ソウル市にある梨花女子大学を訪問し、キャリア開発センター、アジア女性学センター、リーダーシップ開発機構の3機関の担当者にリーダーシップ教育及び研究の取組に関するインタビュー調査と授業参観を行いました。

#### 【調査報告1】 キャリア開発センターにおけるリーダーシップ認証プログラム等のリーダーシップ教育に関する取組

梨花女子大学にはリーダーシップ認証プログラムがあり、これは「シェア・リーダーシップ」、「キャリア開発と力量開発」、「グローバルリーダーシップとキャリア開発」、「コア人材リーダーシップ」、「社会奉仕」の5科目の受講を通して、リーダーシップ認証書を付与するプログラムとなっています。

#### ○共通講義「シェア・リーダーシップ」

リーダーシップ認証プログラムの基礎科目です。参観した講義では、受講生約60名が、韓国社会における市民同士の葛藤に関する具体的事例をニュース番組の視聴を通して確認し、その上で問題についてグループワークでディスカッションを行いました。シェア・リーダーシップとは、一般的な意味のリーダーシップではなく、隣人との共生についてグループメンバーとともに考え、問題解決のために協力することを意味します。

#### ○講義「グローバルリーダーシップとキャリア開発」

スクラントン学部との連携科目です。スクラントン学部は1年次に専攻を選ばずに入学する学部で、学生の進路選択やキャリアサポートの場にもなっています。講義は、講演(40分)、質疑応答(35分)で構成され、ゲスト・スピーカーと学生の双方向的な対話が目標とされています。

#### 【調査報告2】 アジア女性学センターのEGEP等のグローバル女性リーダー育成のための取組

Ewha Global Empowerment Program (EGEP) はアジア・アフリカ地域の非政府公益部門の女性人材の能力強化及び次世代のグローバル女性リーダーの養成を目的とする教育プログラムです。年に2回、各期約25人の参加者を対象として開設される2週間の短期プログラムです。

#### 【調査報告3】 リーダーシップ開発機構におけるリーダーシップ評価指標の開発や他国との連携、リーダーシップ教育等の取組

リーダーシップ開発機構は、梨花女子大学の教育・研究を基盤に、韓国社会におけるリーダーシップ・モデルと教育方法の研究・開発を行っています。企業等で指導的な立場に就く女性のための専門的なリーダーシップ教育を提供しており、教育内容としては、自己理解のためのリーダーシップ・スタイル診断、ビジネス・マインドやコミュニケーション・スキル向上のためのトレーニング、ケース・スタディを通じた問題解決のワーク、多文化的環境におけるグローバル・リーダーシップの獲得を目指すトレーニング、ビジョンの具体化のための専門家によるコーチングなどが含まれます。また、受講生同士のネットワーキング構築のため、宿泊形式のワークショップを行っています。さらに、リーダーシップ能力に関する独自の評価指標を開発していて、評価指標は自己管理能力、タスクの遂行、対人関係などで構成されています。現在、既存の指標を改善し、新たな指標を開発中です。

#### 【まとめと今後について】

今回の調査から、梨花女子大学では、韓国社会やグローバル環境において必要とされるリーダーシップ教育が様々な講義やプログラムにおいて実施されていることがわかり、梨花女子大学との連携の可能性や方向性を探ることができました。今後はさらに海外調査校を増やし、アジアのリーダー育成プログラムやその効果を検証する指標について共同研究、共同開発などによる連携を目指したいと思います。



「シェア・リーダーシップ」講義の様子

## <書評> 山口一男著『ダイバーシティ-生きる力を学ぶ物語』(7/9に講演会を開催します)

お茶の水女子大学グローバルリーダーシップ研究所 准教授 谷口幸代

### 【<社会学者だからこそ書ける文学>の意義と魅力】

公開講演会「リーダーシップ論 第10回」の主題となるのが本書である。講師にお迎えする著者の山口一男氏(シカゴ大学ラルフ・ルイス記念特別社会学教授、経済産業研究所客員研究員)は計量分析や統計的分析手法の開発で国際的に活躍され、それゆえ氏の業績中で本書は異質と受取られるかもしれない。数量的分析の著書ではなく、文学作品であるからだ。

しかし、むしろ本書は氏の研究と不可分な関係にあると捉えるべきである。たとえば氏の『ワークライフバランス 実証と政策提言』(日本経済新聞出版社、2009年)は一般読者にも配慮されているものの、基本的に精緻な実証分析に基づく。しかし、そこでは多様性の尊重と推進に関する氏の基本理念を伝えるのが本書『ダイバーシティ』だと言及されている。この位置づけには、本書は社会的な考え方や見方に基づいた新しい形の文学として、〈ダイバーシティ〉の本質を問うたものだという著者の思いがこめられていると見てよく、その自負は〈社会学者だからこそ書ける文学〉という扉の言葉に端的に表れている。

『ダイバーシティ』は、「社会科学的ファンタジー」と「教育劇・日米規範文化比較論」との副題が付された二作から構成される。前半の「六つボタンのミナとカズの魔法使い」は、主人公「ミナ」が自己のアイデンティティに関わる問題を解決するため「魔法使いのカズ」に会いに出かける異世界ファンタジーである。旅の途上では社会学から数学、経済学、哲学、論理学まで〈文理融合〉の課題が待ち受ける。その課題に向き合う中でミナの悩みには実は創造的な価値を見出し得るということ

理解する構図になっている。即ちミナの旅は〈個人〉にとつての〈ダイバーシティ〉の意味が明らかになる軌跡を描いているのである。どの頁を開いてもユーモアとウィットに富む楽しい工夫に満ちていて、ミナに焦点化した語り、読者が知的な楽しみを味わいながらミナの旅の同伴者となることを可能にする。

後半の「ライオンと鼠」は、「六つボタンのミナとカズの魔法使い」が架空の星を舞台とするのとは対照的に著者の現実の授業風景をいわばモデルとし、「シカゴ大学」で教鞭をとる「ヤマグチ教授」の「日本社会論」の様子を活写する。「ライオンと鼠」という題名が示すように、イソップ童話を材料に、経済学科や極東言語文化研究科のアメリカ人学生、学科を指定しないプログラムの日本人留学生、社会学科の日系四世の学生、政治学科の中国系アメリカ人学生など、エスニシティも専攻も異なる多様な学生達が日米の文化規範をテーマに討議する。作中テキストを織り込んだ創造的な対話が、一教室という限定された空間を、〈社会〉にとつての〈ダイバーシティ〉の意味を読者も共に考える場に変える。

本書が刊行されて8年。多様な人材の個性を引き出す〈ダイバーシティ・リーダーシップ〉という言葉を目にする機会も増えた。通常「多様性」と訳される〈ダイバーシティ〉を〈豊かな個性は価値創出の泉〉と訳した本書の意義と魅力はますます増している。



東洋経済新報社  
2008年7月24日発行  
挿絵: 森妙子

## <イベント報告> スペシャルタナーレクチャーを実施しました

お茶の水女子大学グローバルリーダーシップ研究所研究員 佐藤敦子  
(基幹研究院自然科学系 助教)

### 【キャロル・ブラック氏と女子大のあり方を語る】

5月18日、日本で初のタナーレクチャーをお茶の水女子大学で開催しました。これまでハーバードやオックスフォード、ケンブリッジといった、世界の有名大学のみで開催されてきたタナーレクチャーですが、このたびお茶の水女子大学の女性リーダーシップ教育に関心が集まり、日本初の開催地として選ばれました。講演者は、英国・ケンブリッジ大学で最も大きく最も古い女子カレッジ、ニューナムカレッジの学長を務めるキャロル・ブラック氏。同氏は、英国内科医界のトップを歴任したのち、英国保健省および公衆衛生庁における政策にも携わる傍ら、現在はケンブリッジ大学で、女性リーダー育成のための活動を数多く手がけています。

講演で、キャロル・ブラック氏は、英国および世界における女性の社会における活躍がいまだに男性と同等とは言えない現状を踏まえ、幼少のころからの「女の子だから、男の子だから」という先入観の強い教育を変えていくことの重要性や、若い女性たちが自信をもって、失敗を怖れず物事に挑戦していくことの大切さ、また、男性や社会が女性の活躍を支えていくことの必要性を説きました。同氏はまた、女性が男性の目を気にすることなく、リーダーシップを磨いていくことのできる場所として、女子大の重要性を説きました。若い女性を育てることへの情熱あふれるご講演となりました。

講演の前には、グローバルリーダーシップ研究所(IGL)およびジェンダー研究所(IGS)のメンバーとの昼食会を催しました。グローバルリーダーシップ研究所の活動について説明を行ったほか、日本及び英国における女性の管理職の割合の少なさや、その背景となっている問題について、活発な意見交換が行われました。



ブラック氏の講演(於徽音堂)



ブラック氏と室伏学長



ブラック氏とIGL、IGSメンバーとの昼食会